



◆調査結果

○建設機械の稼働に係る大気質【二酸化窒素（NO<sub>2</sub>）、浮遊粒子状物質（SPM）】

- 二酸化窒素（NO<sub>2</sub>）については、いずれも環境基準を下回る結果となっています。
- 浮遊粒子状物質（SPM）については、1日平均値、1時間値ともにいずれも環境基準を下回る結果となっています。

調査時期	調査日	B		
		NO <sub>2</sub> (ppm)	SPM (mg/m <sup>3</sup> )	
		1日平均値	1日平均値	1時間値の 最大値
夏季	7月9日	0.009	0.035	0.060
	7月10日	0.013	0.016	0.030
	7月11日	0.010	0.012	0.026
	7月12日	0.012	0.019	0.039
	7月13日	0.009	0.015	0.030
	7月14日	0.010	0.014	0.027
	7月15日	0.014	0.019	0.045
	期間内平均	0.011	0.019	—

○工事用車両の運行に係る大気質【二酸化窒素（NO<sub>2</sub>）、浮遊粒子状物質（SPM）】

- 二酸化窒素（NO<sub>2</sub>）については、いずれも環境基準を下回る結果となっています。
- 浮遊粒子状物質（SPM）については、1日平均値、1時間値ともにいずれも環境基準を下回る結果となっています。

調査時期	調査日	A			調査日	D		
		NO <sub>2</sub> (ppm)	SPM (mg/m <sup>3</sup> )			NO <sub>2</sub> (ppm)	SPM (mg/m <sup>3</sup> )	
		1日平均値	1日平均値	1時間値の 最大値		1日平均値	1日平均値	1時間値の 最大値
夏季	8月4日	0.014	0.011	0.028	6月16日	0.020	0.028	0.049
	8月5日	0.013	0.020	0.052	6月17日	0.013	0.010	0.023
	8月6日	0.009	0.023	0.045	6月18日	0.009	0.013	0.026
	8月7日	0.006	0.026	0.046	6月19日	0.012	0.016	0.040
	8月8日	0.007	0.028	0.062	6月20日	0.015	0.035	0.069
	8月9日	0.014	0.029	0.058	6月21日	0.010	0.022	0.037
	8月10日	0.015	0.035	0.053	6月22日	0.019	0.011	0.024
	期間内平均	0.011	0.025	—	期間内平均	0.014	0.019	—

参考

◆環境基準

二酸化窒素：1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。

浮遊粒子状物質：1時間値の1日平均値が0.10mg/m<sup>3</sup>以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m<sup>3</sup>以下であること。

※環境基準との評価は、『道路環境影響評価の技術手法』に基づいて、1年間の測定を通じて得られた1日平均値のうち、低い方から数えて98%目（若しくは高い方から数えて2%目）にあたる値を環境基準と比較することにより行います。

○建設機械の稼働に係る粉じん等

- ・粉じん等（降下ばいじん量）については、参考値を下回る結果となっています。

	調査時期	C
降下ばいじん量 (t/km <sup>2</sup> /月)	夏季	2.9

○工事用車両の運行に係る粉じん等

- ・粉じん等（降下ばいじん量）については、参考値を下回る結果となっています。

	調査時期	A	D
降下ばいじん量 (t/km <sup>2</sup> /月)	夏季	6.0	4.3

**参 考**

◆環境基準

降下ばいじん量に環境基準はありません。

◆参考値

降下ばいじん量：20t/km<sup>2</sup>/月以下

※環境を保全する上での降下ばいじん量は、スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標\*を参考とした20t/km<sup>2</sup>/月が目安と考えられます。（「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」より引用）

なお、計測されるばいじん量は建設機械以外から発生するものも含まれるため、環境影響評価では、上記基準を達成するよう、建設機械の稼働の寄与分を10t/km<sup>2</sup>/月以下とするよう評価を行っています。

\*「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律の施行について」（平成2年7月3日、環大自第84号）